



▲カリフォルニア大学パークレー校のエレベーター  
エレベーターの床に近いところに操作パネルがあります。押すというより蹴るという形で使います。もちろん車椅子の人でも楽に使えます。

に対しての直接的なサービスは行っていません。

※ 学内には、自分の障害を認識していない人やサービスを求めない障害者も約九百人いるとD・S・P事務所では推測しています。

③ サポートサービスの内容とサービスの内容は左記のとおりです。

ア 通訳

イ 代筆(ノートテイク)

ウ アシスタントテクノロジ

ー(コンピュータからのデータ)

キスト文字を読む等)

エ 住居サービス(車いすでもアクセス可能な住宅の紹介)

紹介)

オ エクステンデッド(テストのとき字を書くのが遅い人をアシスト)

④ 障害のとらえ方

「障害」のとらえ方が、日本と大きく異なり、学習障害が全障害の約半数を占めています。従って、D・S・P事務所と同一建物に、広い自習室(Student Learning Center)が設けられ、特に学習障害のある学生のために、他の学生が個人教授するのに使っています。

また、学内には、D・S・Pに参加している学生のためのテクノロジセンターが設けられています。

### ▲障害の内訳▼

● 学習障害(LD)……………	44%
※ このうち、8%はADHD「注意欠陥・多動性障害」で増加しています。	
● 内蔵疾患、慢性疾患……………	36%
● 移動障害(車いす等)……………	12%
● 視覚障害……………	4%
● 聴覚障害……………	2.5%
● その他……………	1.5%

※ 右記障害の他にも、コンピュータの打ちすぎが原因となる腱鞘炎も障害と認めています。すなわち、学生生活を送る上で何らかの障害が起こったらそれをサポートするのがD・S・Pなのです。

⑤ 聴覚障害者に対するサービス  
介助は、手話通訳者のようなライセンスの必要なものから、学習障害に対しての教育経験・知識を求められるものや、特別な資格のいらぬものまで様々です。介助費は、15\$/1Hで、政府等のエージェンシーから介助員に支払われます。

ライセンズを持つ手話通訳者は大学に七人いますが、聴覚障害者に対するサービスは、手話通訳とキャプションの二つあり、聴覚障害者が選択できます。

※ キャプション

リアルタイムの文字変換をいいます。  
話す速さとはほとんど同時にコンピュータの画面にキーボードで打った文字を表示しています。

音声入力で、画面に文字出力するコンピュータもありますが、現在は、トレーニングを受けた「キャプション」技術者が打ち込んでいます。

カリフォルニア盲学校・聾学校(フレモント)

### 盲学校

点字ブロックがない盲学校  
生徒数約百三十人(三歳から十二歳)で、視覚の単一障害は全体の10〜15%で、他は聴覚、知的、身体的な重複障害です。  
教師の数は三十七人で、うち、盲人が五、六人います。担任は十二人ですが、他に十五人のスペ